

開花期制御イネの隔離ほ場栽培

(栽培実験期間：平成25年度)

確認項目	確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について (独)農業生物資源研究所(生物研)の本栽培実験は、(独)農業環境技術研究所(農環研)の隔離ほ場において隔離距離による交雑防止措置をとっていること、農環研内の同種栽培作物までの距離が30m以上、農環研外の最も近い農家の水田との距離は500m以上であることを確認しました。
	○選定場所における風の影響について 栽培実験区画は、過去のデータ等から、イネの開花期の平均風速が毎秒3mを超えないことを確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について 交雑の可能性が想定されるような低温にはならなかったことを確認しました。
	○モニタリング措置について 交雑の有無について、モニタリング用の指標作物の種子を26,458粒調査した結果、交雑粒がなかったことを確認しました。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について 実験の種子については、密閉容器に入れ、他の種子と区分して管理を行っていることを確認しました。また、育苗は特定網室にて拡散防止措置をとって行い、隔離ほ場では田植え前から収穫後まで防鳥網を設置して、野鳥等の食害による拡散を防止したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について 栽培実験区画内にて使用した機械等は同区画内で払い落としした後、隔離ほ場内の洗い場で洗浄したこと、被服等は栽培実験区画近くで払い落としを行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について 収穫物については、密閉容器に入れ、他の収穫物と区分して実験室内で保管・管理を行っていることを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について 残渣(ワラ等)は乾燥後に焼却し、その他の残渣(切り株等)及び地下部は、越冬試験終了後、鋤込みにより不活化したことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて 平成25年度には後作を行いませんでしたが、平成26年度に平成25年度と同様に遺伝子組換えイネを栽培する計画であることを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について 計画書について、平成25年6月10日にプレスリリースにより公表したことを確認しました。また、同日に生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○説明会の開催等について 説明会を平成25年6月22日に開催し、10名が参加したこと、見学は4件(73名)へ対応したことを確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について 説明会の開催を含め、本栽培実験の経過について、8件の情報が生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について 本栽培実験における収穫後の処理等について、平成26年2月18日に生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。また、本栽培実験の結果について、平成26年5月11日に別途開催した説明会において説明したことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について 栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備していることを確認しました。

(参考) 独立行政法人農業環境技術研究所 隔離ほ場における栽培実験に係る情報提供について

「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」では、栽培実験の開始前から終了に至るまで、適宜情報提供することを定めています。

開花期制御イネの平成25年度栽培実験に係る上記の情報は、独立行政法人農業生物資源研究所のホームページ掲載されており、以下のURLからご覧になれます。

http://www.nias.affrc.go.jp/gmo/gmotop_2013.html

以下に、掲載されている情報の一部をご紹介します。



栽培実験区画の様子
(平成25年7月10日)
※防鳥網設置後



開花期制御イネの様子
(平成25年8月7日)